

# 國學院大學學術情報リポジトリ

〔談話室〕 浮世絵は海をこえ、時をこえて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤澤, 紫, Fujisawa, Murasaki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00000505">https://doi.org/10.57529/00000505</a>

## 浮世絵は海をこえ、時をこえて

藤澤 紫

一七世紀後半に江戸で誕生した浮世絵は、町民文化の高まりや卓越した木版技術を支えに、庶民の主要なメディアとして開花した。中でも一番人気の商品は「錦絵」と呼ばれる多色摺版画で、一〇遍以上も版を重ねる複雑な工程にもかかわらず、大量生産によって価格が抑えられたため、俗にかけそば一杯分（一六文、約四〇〇円）程度で販売された時期もある。子どもの遊具として使用したおもちゃ絵などもあり、身近な娯楽品として受容された。美しく洗練され、かつ安価で大量に供給可能な錦絵は海外でも愛好され、一九世紀後半にはジャポニスム (Japonisme) などの現象を生んだ。その人気は国内に留まらず、浮世絵は今や、日本文化を象徴するアイコンにもなっている。

喜ばしいことに、二〇一六年に國學院大學博物館にも、約一四〇〇点の錦絵のほか、ぼち袋、千社札などの木版画のコレクションが加わった。美術史を学ぶ大学院生も参加して基礎データを作成する過程で、後期印象派の画家フィンセント・ファン・ゴッホ（一八五三〜九〇）が旧蔵したコレクションと同じ図柄の、三代歌川豊国（一七八六〜一八六四）画「今様押絵鏡 芸者長吉」（二八五九年刊）【図①】などが含まれることも確認された。コレクションの一部は企画展「浮世絵ガールズ・コレクション 江戸の美少女・明治のおきちゃん」（二〇一九年六月二九日〜八月二五日）にて公開され、学内外の来場者で大いに賑わった。特に話題を集めたのが、文明開化期の少女を描いた、楊洲周延（一八三八〜一九一三）画「幻燈写心競 洋行」（一八九〇年刊）【図②】などの明治期の作品である。時代風俗を写す浮世絵らしく、心を写す意の「写心」と普及しつつあった「写真」を重ね、当時の女性の夢を背景に映し出す趣向である。本図刊行の前年に、女子英学塾（現津田塾大学）を開いた津田梅子氏の二度目の渡米があり、西洋の言葉を学ぶ洋

【図①】三代歌川豊国画「今様押絵鏡 芸者長吉」安政六（一八五九）年 國學院大學博物館



【図②】楊洲周延画「幻燈写心鏡 洋行」明治二十三（一八九〇）年 國學院大學博物館



装の少女の夢も、これに因んだ「洋行」である。実は本図の刊行年は、奇しくもゴッホの没年にあたる。浮世絵は海を越え「美の親善大使」ともなり、また時を超え、当時の人々の思いを現代に伝えるツールにもなっているのだ。

海外のコレクションに目を向ければ、米国最古の美術館で多数のアジア美術を所有するボストン美術館にも、良質な浮世絵が所蔵されている。中でもボストンの実業家であったウイリアム・スチュアート・スポルディング（一八六五～一九三七）・ジョン・テイラー・スポルディング（一八七〇～一九四八）兄弟が一九二一年に寄贈した六〇〇〇点もの錦絵は著名で、色彩を保つ目的で展示不可を寄贈条件としたため、「浮世絵の正倉院」と呼ばれてきた。今世紀初頭にその全てを当時最先端のデジタル機器で撮影し、二千万画素の画像データを同館のデジタルミュージアムにて公開に踏み切った。筆者も一五年ほど前にこのプロジェクトに携わり、現在は画像の版權を持つNHKの4K放送（国内・海外向け）、およびEテレにて放映中の五分番組「浮世絵EDOLIFE」シリーズの監修に携わっている。「暮らし」に切り込んだ構成が評価され、今春に同局で二つの賞を受賞したが、このように、浮世絵は今も日本の文化を伝える有用なツールであり、様々な媒体を通じて軽やかに世界を飛び回っている。

一八歳で浮世絵に興味を持った当初は、浮世絵は今よりもずっと「新しい」研究領域であった。一方でこの研究を進める先に、海をこえた国際交流への道がつながる予感も、漠然とであるが得ていた。身近な課題を一つずつクリアする行為が、時をこえてその先の夢につながることも、浮世絵研究が教えてくれた喜びの一つである。

（日本美術史・江戸文化論）